

ぐれた作品を数多く残しています。

連歌師の旅は、第一に古典の勉強です。古今集や源氏物語、伊勢物語などの古典や短歌の勉強は、直接先生の口から聞いて学ばなければならなかつたのです。さらに、連歌師たちはその学んだことを地方の大名や有力者たちに教えて、お礼のお金をもらいました。それが連歌師たちの生活をささえる収入となつていたのです。だから、古典を学ぶためにも、収入を得るためにも、連歌師は旅をしなければならなかつたのです。

第二には、自分の連歌をみかくためにも旅は必要でした。歌枕の旅といわれるものです。歌枕とは、昔の歌人がすぐれた短歌をよんだ場所のことです。その歌枕をたずねて歩き、その同じ場所で昔の歌人と同じような感じ方をするためにたずね歩く旅をしたのです。その旅はただ自然を観察するためだけの旅ではありません。昔のすぐれた歌人が感じた自然の中に自分もはいりこんで、自